

楽譜の縦線

終えたばかりのコンサートの為に制作したスコア譜の一部が今回の見本です。3連符と反復記号括弧の縦の線にご注目下さい。横の線に比べて細くしてありますが、Finaleのみならず楽譜作成ソフトを普通に使ってこの姿を実現することは困難です。

例えば Illustrator で線を描くとしましょう。アンカーポイントと呼ばれるコーナーを用いれば、どんな複雑な図形の輪郭でも一つの線として表すことが出来ます。これをパスと言いますが、その線幅は必ず一定でなければなりません。一つのパスの中で、或る部分の線幅だけを変えるとといったことは出来ないようになってしまっています。では縦と横それぞれに別のパスを描いて、それらの端点をピッタリ合わせて接続すればどうかと言うと、確かに一本のパスには生成出来ます。けれどもその場合は、両者の内の新しい方、つまり後で描かれた方の線幅に無条件に、かつ自動的に統一されてしまいます。いわゆるベクトル系描画ソフトはそういう仕様になっているわけです。

操作の上で必ずしも意識出来ることではありませんが、旗や音部記号などはフォントとして扱われ、五線やスラーのような直線や曲線などはベクトルとして描かれるのが Finale というソフトの仕様です。それは本質的に Illustrator と同じです。

よって連符であれ、反復記号括弧であれ、縦線と横線を一つのパスとして扱う限りは両者の線幅を変えることが出来ないことも納得できます。別のパスを描いてその端点を重ねる方式にすれば可能でしょうが、先のバージョンアップでそれが実現されるとは考えにくいです。仕様の大幅な変更は昔のデータを正しく読めなくなることを意味しますし、最新のバージョンで大昔のデータを問題なく開くことにかけては、Finale の性能は驚異的です。この姿勢はこれからも、(あるいは永遠に!) 貫かれると思われまますので、私は特に製造元にこの要望を出すつもりはありません。一方で好ましい姿にしたい気持ちも強いので、最近開発した方法で縦線だけを細くしています。

左のカギの長さ:

右のカギの長さ:

反復記号括弧の初期設定の一部。まず数値をゼロにして垂直線を無くしてしまうが、それに伴って他の多くの設定も変えなければならない。しかし、巧く設計すれば後の操作は早く、とても簡単になる。

水平位置

発想記号の位置合わせ:

垂直位置

位置:

expression

縦線用のアイテムを作って、小節発想記号として付けていく。垂直位置の初期設定は反復記号の高さと用いるアイテムの長さとの関連で決まる。1括弧と2括弧が同じ組段で続く場合、2括弧を閉じる場合、その他の場合も考えて、水平位置の初期設定がそれぞれ異なるアイテムを5種類ほど用意する。反復記号括弧の横線の個別調整も必要になるが、本例は1括弧左用の設定。

基準点:

水平位置の微調整:

垂直位置の微調整:

それは他のアイテムと組み合わせる方法です。特に Ver.2004 から導入された発想記号の初期位置設定機能を巧く使えば、かなり正確に速く付けていけます。左の例は反復記号縦線を小節付けするものですが、連符の場合は音符付けとして同様の操作が出来ます。自作のフォントセットに縦線用のグリフ数種を用意しましたが、アイテムの図形作成で対処することも可能です。

縦線を細くするという様式は単に日本の伝統に過ぎないのかもしれませんが、楽譜が締まって見えて良いものです。直近の仕事で初めて用いた技法でして、出版社からの良い評価をいただけたようでもあり、これからも使っていくつもりです。

2007年5月 梅本雅弘